

CT検査・造影CT検査説明書

【CT検査について】

この検査は、X線とコンピューターを使用して、全身各部の断層像を撮影し病気を診断します。検査内容によっては造影剤を使用する場合があります。検査時間は10分から30分程度です。

【検査を受けるにあたって事前の注意事項】

下記の事項に心当たりのある方は、必ず検査前に申し出てください。

- (1) 妊娠をしている方およびその可能性のある方。
- (2) 1週間以内にバリウムを使用した検査を受けた方。
- (3) 造影検査を受けられる方で、薬や造影剤などで過去にアレルギー反応、副作用があった方。
- (4) 造影検査を受けられる方で、ぜんそくやアトピー体質の方。
- (5) 造影検査を受けられる方で、糖尿病のお薬を服用されている方。

【造影検査に関する注意事項】

CTや尿路造影などの諸検査でヨード造影剤を使用することにより病気の診断に非常に有用な効果を発揮する場合があります。ただし同造影剤においては以下のような副作用が報告されています。

①蕁麻疹・かゆみ・発疹・浮腫など	(0. 2～0. 8%)	②呼吸困難・咳・くしゃみなど	(0. 1%以下)
③嘔気・嘔吐など	(0. 2～0. 7%)	④注射箇所の疼痛	(1. 7%)

- ただしアレルギー体質の患者様においてはこれらの副作用の頻度が高くなります。
- 極まれに重症のアナフィラキシーショック（血圧低下・呼吸停止・心停止など）が生ずるとした報告があります。（0. 04～0. 1%程度 1万人に4～10人）
- 検査中になんらかの異常を自覚されましたら、医師・看護師・技師に教えてください。迅速な処置が行なえるように準備しておりますのでご安心ください。
- 同日夕方または後日など遅発性の副作用が出現する場合があります。詳しくは検査後、別紙をお渡しいたしますのでご一読ください。

※予約の変更はできるだけご遠慮下さい。なお、やむを得ず予約日時に来院できない場合は、お早めにご連絡ください。

島根県済生会江津総合病院

電話（0855）54－0101

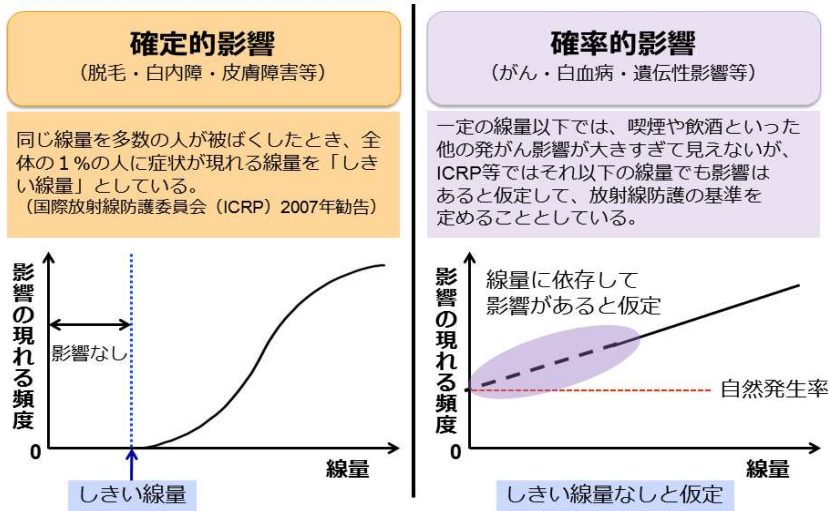
放射線検査を受ける方へ

放射線の影響（確定的影響・確率的影響）

放射線検査では放射線を人体に照射するため、放射線被ばくが発生します。

放射線被ばくによる人体への影響は、確定的影響と確率的影響の二つに分けられます。確定的影響はしきい線量（影響が発生する最低の線量）を超えると発生し、症状としては「脱毛・白内障・皮膚障害」などがあります。もう一つの確率的影響はしきい線量がなく線量の増加に伴って発生率が増加し、症状としては「がん・白血病・遺伝性影響」などがあります。

人体への影響 確定的影響と確率的影響



当院の検査ではしきい線量を超えることはありません。一般的には放射線被ばくによる影響はほとんどないと考えられており、発がんのリスクにおいても食事やストレスなど放射線以外の因子によるものと区別できないと言われています。

(出典：環境省ホームページ)

行為の正当化

放射線被ばくによるリスクと、放射線検査による病気の早期発見や治療方法の決定などのメリットを測ったうえで、メリットが大きいと判断された場合に放射線検査を行います。

放射線防護の最適化

検査の際にはなるべく少ない線量ですむように、放射線の量を体格に合わせて調節したり、照射する範囲をなるべく小さくしたりとさまざまな工夫がされています。通常の放射線検査ではしきい線量を超えるような被ばくを受ける事はありません。

このように診断の必要に応じて適切な放射線検査を行いますので、安心して検査を受けてください。

当院の主な検査でのおおよその被ばく線量

検査名	実効線量(mSv)	検査名	実効線量(mSv)
心臓カテーテル検査	100～200	頭部CT	2.6
X線撮影（胸部撮影）	0.2	胸部CT	7.1
自然放射線	2.4	胸部・腹部CT	15.6

核医学検査（骨シンチ）	標準投与量 740MBq (5mSv)
-------------	---------------------

202511v1